

阿南高専出前講座 ～未来の技術者達に伝えるみなとの魅力～

12月12日、阿南工業高等専門学校にて、建設コースの学生に対し出前講座を行いました。出前講座では、私たちの生活と港湾・空港の関わりについて説明し、実習として、防波堤の設計計算を行いました。併せて、県内の港湾・海岸事業や私たちの仕事についても紹介しました。

設計計算は少し難しかったようですが、普段勉強していることが実際にどう活かされるのか、理解できたのではないのでしょうか。

質問タイムでは、災害時にはどのような仕事をするのか、といった防災業務に関する質問もありました。近年、自然災害が増えており、学生の防災への関心の高さを感じました。

加えて、講義後のアンケートでは、「経済、生活基盤を支えるのに欠かせない存在」「港湾＝海上というイメージが強く、女性は馴染みにくいと思っていたが、実際にはそんなことはなく好印象になった」等、港湾の必要性、重要性を認識していただき、更に、港湾行政に携わる職員の思いも伝わったと思います。

これからも、当事務所はこのような機会を捕まえ、港湾行政を広くPRし、小松島港湾・空港整備事務所の役割を知って頂きたいと思っております。



出前講座の様子

徳島小松島港を舞台に若手職員のスキルアップ研修を実施

四国地方整備局港湾空港部では、若手職員(採用1年～5年程度)を対象として、四国管内の港湾工事の現場を見学し、座学による知識習得を合わせて効果的にスキルアップを図る取り組みを実施しています。

11月29日、当事務所に四国中から若手職員9名が集まり、徳島小松島港の概要や金磯地区で実施されている岸壁の老朽化対策工事について、当事務所職員や施工業者から対策工事の流れ、施工効率化の工夫等の説明を受けました。金磯地区の岸壁は供用開始から約50年が経過し、老朽化が進行している栈橋式岸壁であり、また、全国的にも老朽化が進行した港湾施設が今後ますます増加すると予測されるということから、若手職員達は真剣に話に耳を傾けており、積極的に質問をする姿が印象的でした。

四国地方整備局港湾空港部では、若手職員の育成を積極的に展開し、最新のニーズを踏まえ社会基盤を支える港湾等の社会資本整備に取り組みます。



金磯地区の現場を見学する職員達



金磯地区はココ!

事務所職員コラム 徳島ってええんじょ!

皆様、事務所広報誌をご愛読頂きありがとうございます。前号に引き続き、広報誌の巻末で私たち職員の日常や徳島県の魅力をお伝えするため、今回は若手職員の山崎が筆を執った次第です。

私は生まれが高知県で、昨年徳島県に来て、人生初めての一人暮らしに不安がいっぱいでしたが、今ではすっかり徳島県を気に入り、毎日を楽しんでいます。

私の休日は、日峰山を登り、景色や自然を目一杯感じて過ごしています。日峰山を散策すると、小鳥のさえずり、視界を覆いつくす万緑、元気よく挨拶してくれるおいしいちゃんおばあちゃん達等、心に安らぎを与えてくれるものがたくさんあると感じています。また、山頂からの眺めが良く、フェリーや貨物船が岸壁を利用している状況が一望できます。徳島小松島港が利用されている状況を見て、港湾整備の重要性を噛み締めて、日々の仕事に励んでいます。

執筆：企画調整課 山崎



日峰山からの眺望(本港地区を一望)

出前講座の申し込み受付中!

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。